

Road to ジョッキーベイビーズ

ジョッキーベイビーズ出場を目指して全国各地で激しい予選が繰り広げられました。その模様をレポートします。

8月20日(日)

東北・新潟地区

JRA福島競馬場「東北・新潟地区代表決定戦」

本年は12名がエントリー。まず予選でもある技術審査を行い、選抜された4名がダート直線250mの代表決定戦へ進出しました。日中は思わしくない天気でしたが、夕方には幸いにも雨がやんで晴れ間が差し、良いコンディションのなかで決定戦が行われました。レースは中盤まで5馬身以上後方の3番手だった佐久間悠太くん(中学1年生)が怒涛の追い込みで先行馬をゴール手前で差し切って優勝！ 多くの方の祝福のなか全国大会への切符を手に入れました。



7月30日(日)

北海道地区

JRA日高育成牧場「北海道地区代表決定戦」

本年は4年ぶりに隣接の広場でお祭り(うらかわ馬フェスタ)が開催され、数多くの観客が見守るなかでレースが行われました。同地区には7人馬のエントリーがあり、ダート直線200mの予選2レースの上位2名(計4名)で代表決定戦を行いました。残念ながら決定戦の1位入線馬がフライングにより失格となりましたが、絶妙なスタートを切って後続馬を引き離れた八嶋志有歩くん(中学1年生)が、2位入線からの繰り上がりで同地区の代表となりました。



8月9日(水)

関東地区

JRA競馬学校「関東地区代表決定戦」

東京都世田谷区のJRA馬事公苑が11月のリニューアルオープンを控えるなか、本年も千葉県の子馬育成施設にて行われました。予選の技術審査でエントリー21名から5名に選抜し、代表決定戦はダート直線350mで行われました(同地区は2名の代表を選出)。1着はレース中盤から先頭の座を守った山中怜佳さん、もうひとつの座を獲得したのは山中さんと僅差の荻野 杏 ローズさんとなり、関東地区代表は共に小学6年生女子の選出となりました。



7月30日(日)

東海地区

JRA中京競馬場「東海地区代表決定戦」

本年は7人馬がエントリーし、代表決定戦の1レース(ダート直線300m)のみとなりました。灼熱の炎天下のなか、同地区の代表となったのはお父さんが川田将雅騎手でもある純煌君(小学6年生)。騎乗馬サクラ号の力を信じ冷静なスタートを切り、同馬を真すぐ走りさせる安定した騎乗を披露。中盤で先行2頭に追いついてからは他馬を引き離す圧倒的なパフォーマンスで格の違いを見せつけました。全国大会の東京競馬場でもその騎乗ぶりに注目です。



8月6日(日)

関西地区

三木ホースランドパーク「みっきいポニーレース」

ジョッキーベイビーズの甲子園こと夢の大舞台でもある東京競馬場芝コースを目指し、本年は9人馬がエントリー。予選3レースの各上位1名(計3名)が代表決定戦(ダート右回り300m)に進出します。決定戦の出走馬は、同地区予選優勝継続中のダニエル号、全国大会前回優勝のホルタル号と前々回優勝馬のツクモビジン号とハイレベルな三つ巴となりましたが、他馬を振り切ってダニエル号騎乗の上野未結さん(小学6年生)が見事全国大会の出場権を手に入れました。



8月11日(祝・金)

九州地区

JRA宮崎育成牧場「第32回 馬に親しむ日」

同日は馬に親しむ日のイベントが行われたこともあり、多くのお客様が応援されるなかで代表決定戦(ダート直線300m)1レースのみが行われ、本年は4人馬の争いとなりました。各馬ともフライングに注意した良いスタートを切り、ゴール前では全馬僅差の好レースとなりましたが、優勝したのは乗馬練習を始めてからまだ半年弱だという川崎瑛太くん(小学4年生)。地区予選同様、全国大会でも出場者中最年少騎手の頑張りに期待します。



7月9日(日)

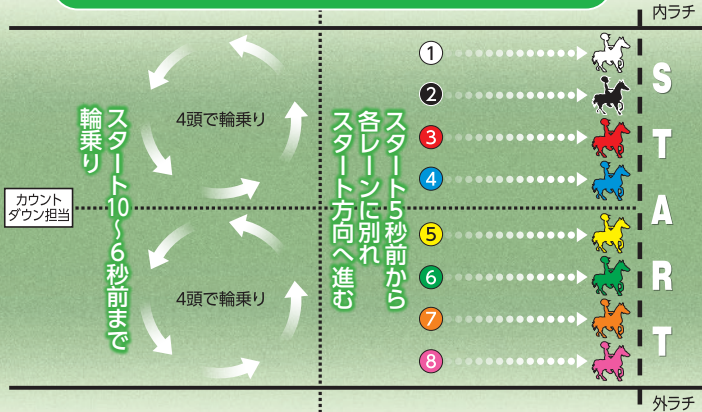
沖縄地区

中城公園「沖縄地区代表選考会」

南国の照りつける日差しのもとで実施された選考会は沖縄県内から3人馬がエントリーして行われました。同地区の選考会はスピードを競うレース形式ではなく、部活審査及び直線走行審査により選考を行いました。3人の審判員が「姿勢」、「扶助操作」、「バランス・リズム」を対象に採点を行った結果、最も優秀な成績(得点)だった、岡村真花さん(小学6年生)が昨年第2位からのリベンジを果たし、全国大会への最初の切符を獲得しました。



スタートの方法 (カウントダウン方式)



★口取り(引き手)はJRA職員が行います。

★危険防止のためムチは持ちません。

※ポニーはゲートの練習をしていません。制止させ一斉に引き手を放すやり方では、馬がよれる可能性が高まり危険なため、上記スタート方法を採用しています。

※東北・新潟地区および関東地区の技術審査は主に「部活(集団で整列して騎乗し号令により動きを変える運動)」および「ジムカーナ(指定経路を走行するタイムレース)」が行われました。
 ※各予選では貸与馬方式(予選主催者がポニーを用意する)【東北・新潟と関東の2地区】と自馬参加方式(ポニーも参加者が用意する)【貸与馬方式以外の5地区】とに分かれています。
 ※各予選の様子はジョッキーベイビーズ公式ホームページにて視聴することができます。

過去のジョッキーベイビーズ優勝者

★第1回(2009年) 木村拓己くん(北海道)	★第7回(2015年) 大池峻馬くん(北海道)
★第2回(2010年) 渡邊亮介くん(関東)	★第8回(2016年) 上薄龍旺くん(九州)
★第3回(2011年) 石井李佳さん(関東)	★第9回(2017年) 加藤雄真くん(東北・新潟)
★第4回(2012年) 小林勝太くん(長野)	★第10回(2018年) 木村暁琉くん(長野)
★第5回(2013年) 斎藤 新くん(関東)	★第11回(2019年) 佐野遥久くん(長野)
★第6回(2014年) 角田大和くん(関西)	★第12回(2022年) 松浦太志くん(東北・新潟)

注目の決勝レースは、いよいよ10月8日(日)、東京競馬場で行われます。お楽しみに!!

※天候その他の理由により、イベントを中止または変更する場合がございます。予めご了承ください。

★ジョッキーベイビーズ公式ホームページ

ジョッキーベイビーズ

検索

